

キュウリは春から秋にかけて栽培され、収穫を楽しめる作物ですが、病害虫の被害が多い作物でもあります。特に、梅雨期や秋雨期には病虫害被害が多くなるので、早めの防除対策が必要です。

病害編

注意する病気と対策

① 苗立枯病

育苗時期に発生し、発芽した苗の地際部が腰折れ状になり、枯死します。病原菌は土壌中に生息し、気温、湿度の高い条件下で多発します。苗の時期に感染しやすいので、育苗用土は新しい土を使い、本葉が2〜3

枚展開した苗を畑に定植します。被害が発生した場合は、オーソサイド水和剤80を800倍に希釈して、1㎡当たり2ℓをジョウロで株元に散布します。

② ベと病

梅雨、秋雨時のやや気温の低い多湿条件下で発生します。葉に水浸状の黄色小斑点ができ、やがて拡大して黄色の角形病斑になります。湿度が高いと葉裏の病斑部分に灰色のか

びが生じます。防除は早めに行い、ダコニール1000やジマンダイゼン水和剤を使用するなど、発病が激しい場合はランマンフロアブル、リドミルMZ水和剤を散布します。

③ 炭疽病

気温が高く、雨の続く時に多発します。葉に水浸状の小斑点ができ、拡大して円形の周辺が褐色で内部が淡褐色から白色、中心部は破れやすい病斑となります。果実や茎にも病

斑ができることがあります。

④ うどんこ病

葉の表面に白色粉状の病斑ができ、病斑は拡大して、葉一面にうどん粉（小麦粉）を振りかけたような症状になります。葉に白色の病斑が見られたら、できるだけ早くモレスタン水和剤、トリフミン乳剤などを散布します。

⑤ つる割病

はじめはキュウリの茎の先端がしおれるようになり、やがて株全体がしおれます。下葉は黄化し、地際部のつるが裂けて鮭肉色の胞子が形成されます。フザリウム菌の感染で発生する土壌伝染病で、発生圃場ではカボチャ台木に接ぎ木した苗を植え付けます。

⑥ 褐斑病

降雨が多いと発病が増加します。葉に円形小斑点が生じ、拡大して直径1cm程度の円形から不整形病斑になり、中心部は灰褐色になります。防除は、発病初期にベルクト水和剤、カンタスドライフロアブルなどを散布します。

⑦ 灰色かび病

キュウリの花弁から感染し、果実、



炭疽病



べと病



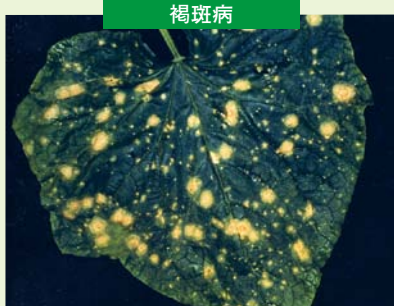
つる割病



うどんこ病



灰色かび病



褐斑病



モザイク病



斑点細菌病



葉、茎に被害が発生します。果実では花着部に灰色から褐色のかびが密生し、果実を腐敗させます。葉では、淡褐色で円形から不整形の大型病斑ができます。防除はトップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ジャストミート顆粒水和剤などを散布します。

⑧ 斑点細菌病

汚染種子によって伝染する病害で、発芽した子葉に円形淡褐色のくぼんだ病斑ができ被害が広がります。生長したキュウリの葉に水浸状の病斑を生じ、病斑は白色から淡褐色を呈して破れやすくなります。種子消毒された種子を使用して、発病したら早めにカスミンボルドー、ビスダイセン水和剤などを散布します。

害虫編

注意が必要な害虫とは!?

① アブラムシとモザイク病

葉裏に体長1〜2mmで黄色または黒緑色のワタアブラムシや淡緑色または桃色のモモアカアブラムシなどが発生します。アブラムシはモザイク病(CMV)を伝染するので防除

が欠かせません。

アブラムシの飛来を防ぐため、苗の時期は虫除けネットを被せることが重要で、畝面のシルバーポリマルチも効果的です。定植時に、モスピラン粒剤やアドマイヤー1粒剤を施用すると、1カ月ほど効果が持続します。

② コナジラミ

体長1〜2mmの白い虫がふわふわと飛び交う場合は、タバココナジラミまたはオンシツコナジラミが発生しています。発生が多くなると、葉がすすで汚れたように薄黒くなります。コナジラミは黄色に誘引されるので、黄色粘着トラップや黄色粘着ロールシートを設置して捕殺します。発生が見られたら、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤などを散布します。

③ ハモグリバエ

体長1〜2mmの黄色いウジムシが葉の中を食い進み、その痕が白い筋になるので、エカキムシとも呼ばれます。成虫は約2mmの小さなハエです。寄生バチなど土着天敵がよく働くので、天敵に影響の少ない薬剤を選択して使用します。発生が多い場合は、プレオフロアブルなどを散布します。

④ ウリハムシ

体長1cmほどの黄色い虫が飛び回り、直径1〜2cmの円を描くように葉を食べます。発生が多いと、果実表面にも円状の傷がたくさん生じます。見つけ次第捕殺します。

⑤ ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)

体長1〜2cmほどで、背中に2本の白い筋のある緑色の虫が新芽や葉をつづり合わせて食害します。新芽や葉をよく観察して虫を捕殺します。

⑥ ハダニ

発生が多い場合は、デルフィン顆粒水和剤、アフーム乳剤などを散布します。

体長1mmほどで、赤色のカンザワハダニ、淡緑色のナミハダニが発生します。葉が吸汁されるので、その部分が点状に白く抜けたり、葉全体が白っぽくなったり、部分的に黄色くなったりします。高温乾燥条件を好み、発生が多い場合はマイトコーネフロアブル、バロックフロアブルなどを散布します。

タバココナジラミ



ワタアブラムシ



ウリハムシ



ハモグリバエ



ナミハダニ



ワタヘリクロノメイガ

